



佐々木 敦緒 議員

一問一答方式

遠野畜産の未来について

市長 育種改良を進める

問……………

黒毛和牛の子牛価格低迷対策に向けて育種改良及び飼料等の自給率の向上を、さらには遠野牛乳のブランド化なども表明しているその進捗状況は。

答(市長)……………

育種改良は県外から優良血統牛の導入及び市内の優良血統牛保留の両面を考えている、飼料の自給率向上は農地を集積し牧草やデントコーンWCS等の作付け拡大を図る。

牛乳のブランド化については苦戦している。

問……………

育種改良を図るには最低でも3年はかかる。私は、市内の優良血統牛から生まれた子牛のゲノム検査に補助し優良子牛を保留した方が速い育種改良と考え、しかし今は飼料等の価格高止まりへの対策こそが必要と思う。

答(市長)……………

乳牛雄子牛等の出荷

時に1頭当たり3万円ヌレ子の支援は継続する。また肥料高騰への助成も続ける、配合飼料については国・県の支援が充分でなかった場合は対応をする考えである。

問……………

育種改良を図るには獣医師、人工授精師の確保が課題となるが現状は。

答(市長)……………

獣医師は現在5名、近隣の診療所から応援

を頂く体制である。人口授精部門は畜産農家のほかJAで対応している。

問……………

令和6年4月にNOSA I岩手では獣医師部門の縮小、人工授精師部門を廃止と聞くが。

答(市長)……………

獣医師等人材確保は待ったなし。JA花巻、遠野市が一体となって補完して行く考えである。



飼料価格が高止まりで大変

農地利用の最適化は

農業委員会会長

農地の利用状況調査を行っている

問……………

新規就農者の発掘状況は。昨年年度は1名であった。

答(農業委員会会長)……………

新規就農したホップ農家は農地の集約、団地化が必要と言われている。意見交換は行われたか。

答(農業委員会会長)……………

ホップ農家との意見交換は行っていない。

問……………

今農業現場は大変厳しい状況にある、市等へ農地利用の最適化等意見書は提出されているか。

答(農業委員会会長)……………

意見書は提出していない。

問……………

遊休農地の解消対策は。

答(農業委員会会長)……………

農地の利用状況調査を行い、遊休農地へ菜の花やエゴマの植栽を継続し解消を図っている。

遠野の国際化をどう描く

市長 グローバルとは

「地域のプライド」を築くことである

問……………

4月から設置した国際化アドバイザーの経緯と役割は。

答(市長)……………

国際化については、以前から様々な施策を展開しており、今年1月に独立行政法人国際協力機構(JICA)東北センターと連携覚書を締結し、その覚書に基づいて国際化アドバイザーを設置した。市民の不安解消など、内外の動きを感じ取り、国際理解、多文

化共生、産業振興などで国際化を進めていく。

問……………

民間企業の海外展開に向けた支援とは。

答(市長)……………

市内には特許や特殊技術を持つ企業がある。皆が一緒になって、世界に市場を拡大していく方法を見つけた。アジアの国々は人口が多く、これから世界の中心になっていく。建設業や自動車産

業は幅が広がり、農業は技術供与により生産性が向上する可能性を秘めている。若者たちが交互に行き交うことで、波及効果は計り知れないものとなる。その中で行政は、トップセールスとして役割を果たしたい。



教育文化振興財団提供 英語は勉強するのではなく遊びながら覚えるもの

今後の観光推進施策

市長 「住んで良し 訪れて良し」のまちづくりを進める



淑徳大学との連携協定締結 遠野市提供

問……………

観光振興の一翼を担う地域活性化起業者2名は、どのような業務を担っているのか。

答(市長)……………

2名のうち1名は観光営業広報策として、漫画を活用したSNS情報発信に取り組み、もう1名は、観光協会の支援で、主に教育旅行の企画販売強化に取り組んでいる。5月30日に、淑徳大

問……………

観光マネジメントボード遠野と観光地域づくり法人(DMO)との関わりはどうか。

答(市長)……………

観光マネジメントボード遠野はDMOの母体となる組織である。DMOは遠野ふるさと商社に設置する予定であり、観光戦略の企画立案を担う。マネジメントボードはその意思決定や進行管理、情報共有、資金調達などをサポートし、観光の発展自立を目指している。

※観光地域づくり法人(DMO)

地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する地域経営の視点に立つ司令塔。

